

# 第2回高齢化に関する世界会議に見る グローバルトレンド

阪本 節郎

(博報堂エルダービジネス推進室長)

4月にスペインのマドリードで、第2回高齢化に関する世界会議が開催されました。20年ぶりに開かれる国連の会議で、第1回はウィーンでした。

- ・ 専門家会議 (バレンシアフォーラム)  
4月1～4日
- ・ NGOフォーラム 4月4～10日
- ・ 政府間会議 4月8～10日

と開催され、このうちのNGOフォーラムに参加して来ました。通常企業人は参加できませんが、協同総研横田常任理事のご尽力で、高齢協・労協の方々と一緒に参加できました。ここでは、マーケティングないしビジネスといった視点から、NGOフォーラムあるいは、高齢化に関する世界会議を見るとどうなのか、ということで、記したいと思います。共通して感じられることも多いと思います。

## 1. 世界の高齢社会関係者が一同に

21世紀において、世界の先進主要諸国は、すべて高齢化が進展して行く、また、発展途上国においても高齢化は進展し、とくに、問題は開発途上国において深刻である、といった背景のなかで、政府間会議は186か国、NGOフォーラムはIFA<sup>(\*)</sup>、IA

G<sup>(\*)</sup>、AARP<sup>(\*)</sup>など世界の主だったNGOが集まり、約160のセッションが開かれました。

(\*) IFA : 世界高齢者団体連盟

International Federation on Aging

(\*) IAG : 国際老年学会

International Association of Gerontology ;

(\*) AARP : 全米退職者協会

American Association of Retired Persons ;

全体テーマは「すべての世代のための社会をめざして」で、高齢者だけではなく、高齢者を考えることが、すべての世代のための社会を考えることにつながる必要があるということです。

## 2. グローバルなキーワードが見えた

今回の第2回高齢化に関する世界会議、とりわけNGOフォーラムの最大の収穫は何といってもいま、世界中のNGOの間で語られていることが一同に会したことにより、「共通のキーワード」が見えてきたことです。キーワードは次の二つです。

Quality of Life

Citizenship

「クウォリティオブライフ」は、最近QO

しと略して語られることも多いと思いますが「生活の質」です。

開発途上国からクウォリティオブライフに関する厳しい疑問も呈されましたが、IAGは、国によって、その中味が異なること、その国の文化・宗教・政治をふまえたその国ならではのGood Lifeがクウォリティオブライフを決定する、という基本的な考え方を提示しました。

また、クウォリティオブライフに関しては、「健康」と「お金(年金等含め)」が対になる基本要素として議論されていました。

「シチズンシップ」はDiscrimination(社会的差別)に対してあるべきものとして語られていました。高齢者がややもすると社会から差別され、阻害されがちな現状に対して、積極的に市民として、社会参加できるようにする、ということです。

これは従来の「社会的弱者としての高齢者観」から「一市民としての高齢者観」へと、世界の高齢者観が大きく変わろうとしていることを意味します。

これにともない、高齢者自身のあり方も「受益者としての高齢者」から「社会で積極的な役割を果たす高齢者」へと変わろうとしています。

まさに、エルダー世代は、世界的な規模で、社会の「脇役」から「主役」へと転換しようとしていることを実感しました。

「女性の役割」についてのAARPのセッションもあり、「女性がより積極的に社会での役割」を果たすことも議論されていました。

今後、高齢者自身のボランティア活動あるいは就業なども各方面で議論されることと思われます。その意味では、高齢者の仕事をどう創り出し、どう分け合っていくのかは世界

的に大きなテーマであると言えそうです。

### 3. そのほかの特徴的なテーマ

このほかに、今回、特筆すべきテーマとして、「世代間交流」と「平和」があげられると思います。

#### ・世代間交流

世代間交流は、今回の全体のテーマである「すべての世代のための社会をめざして」に関わることとして、いくつかのセッションで討議されました。基本的には、「若者と高齢者の対話」の必要性が議論され、その具体的な取り組みとして、

環境など地域の社会的テーマを世代を超えてともに取り組む

インターネットで平和を世代間で話し合う(USA)

大学で若者と高齢者が同じクラスになる(ドイツ)

などが紹介されていました。

#### ・平和

国連のフォーラムだけあって「平和」もテーマの一つとなっていました。「高齢者は平和に満ちている」「平和のためにはスローに考えるべき」など高齢者の短所を平和という観点から長所として活かして行くような視点も討議されました。

### 4. マーケティングの視点でも面白かった

今回のNGOフォーラムはマーケティングとコミュニケーションの視点からも大変面白い発見がありました。セッションのご紹介を兼

ねて、いくつかをレポートします。

#### A . 健康

健康は世界で共通のきわめて大きなテーマであり、介護や医療を含めて、多くのセッションで議論がなされました。そのなかで、興味あるいくつかのセッションを挙げると

##### トランスポートと健康

交通手段と健康という一見別のテーマを一つのものとして取り組んでいるNGOがありました。これは、ウォーキングと健康/サイクリングと健康/ドライブと健康/これらのミックスといったことをプログラム化しようとし、各国での取り組みを紹介していました。ユニークなのは健康づくりのためのウォーキングやサイクリングでなく、個々人に必要な「トランスポート」=移動手段と「健康づくり」の最適ミックスを考えているところにあります。結構、目からウロコとい感がありました。

##### 健康クラブ

早期発見が高齢者医療にとっては重要だが、そのためには健康な人の恒常的なチェックが必要となります。そこで、健康クラブをつくって、医療チームが個人を対象としたチェックを行いデイリーケアを行っています。

##### 健康とプライマリケア

これは、日本の介護保険制度にも通じることですが、早期発見・早期医療を可能にするような医療チームが支援し、そのことによって、家族の負担を和らげ、高齢者の孤独もケアしています。

#### B . I T

##### 緊急通報システム

マドリードで急激に伸びているビジネスで、高齢者向けの緊急通報システムです。この特徴と伸びている理由は、単に困ったときに通報できるシステムというだけでなく、「なんでもないときに、電話して話ができる」という「高齢者の話し相手」になるシステムが組み込まれていることです。とくに「通信」すなわち、「在宅・いつでも」を可能にしたところが大きな特徴と言えます。

##### パソコン教室バス

バスのなかにパソコン教室を仕立て、巡回パソコン教室を可能にしています。自分から出向くことが出来にくい高齢者や、パソコン・インターネットに自分から挑戦するところまで行かない高齢者のところへ出向いて行く教室です。

#### C . 企業 P R

企業とNGOが組んだポーランドのケースが報告されていました。アルツハイマーの介護に関する相談を受けるNGOがファイザーをはじめとする3社から支援を受けているそうです。

直接的に企業色を出さないために、アルツハイマー・キャンペーンの統一ロゴを作成して展開しています。企業にとっては、信用向上・企業イメージ向上・商品の認知向上・パブリシティ活用による広告コストの低減が可能になった、と報告されていました。

#### 5 . N G O の役割の増大

##### ・NGOの政策提言

NGOによる政策提言もテーマの一つとなった。これは、AARPとヨーロッパのNGO連合体から報告と提起がなされました。このうち、AARPからは政策提言(アドボ

カシー)に関し、彼らのノウハウとパワーが紹介され、トップの米国NGOらしく、分析・戦略設計・実行のプランニング手順とケースが紹介されていました。

ヨーロッパでは、EUが契機となり、NGO連携の気運が生まれ、連携した力で政策提言を行っている。UK・ベルギー・東欧などから報告がなされました。

#### ・NGOの連携

ヨーロッパでは、上記のほかイタリアなどでも連携が進められており、連携することでより社会的に大きなパワーを持ちつつあると報告されていました。

アジアに関しては、かねてより日本の高齢社会NGO連携協議会(高連協)が連携のビジョンを持っており、今回、樋口恵子氏(高齢者をよくする女性の会代表)、堀田力氏(さわやか福祉財団・高連協代表)などから、アジアのNGOに呼びかけてセッションを持ち、アジアネットワークづくりがスタートしたことは特筆に値すると言えるでしょう。

## 6. おわりに

今回は、私にとっても、高連協・労協の方々と行動をとまにすることが出来、誤解をおそれず言えば、大変愉快的な旅でした。また、協同総研横田氏、京都くらしコープ宮本氏のご尽力でAARP、テス・カンジャ会長(当時)と会談することが出来たことは大変有意義でした。そのカンジャさんとのお話のなかでも出たのですが、これからの高齢者は「余生をおくる人たち」ではなく、「ひとりひとりが人生の花を開かせる人たち」です。そのことが世界的な動きになりつつあることを実感した第2回世界高齢化に関する世界会議でし

た。

最後に、このレポートの内容は同行したシニアコミュニケーション社山崎社長、市場戦略研究所橋本シニアディレクターと手分けをして各セッションに出席し、討議の上まとめたものであることを記しておきます。

